

# もろこし

2020

4

No.47



表紙  
のことば

## 一足早い春の恵み

休耕田では、もうすぐ“わらび”の収穫が始まりますが、2月から3月にかけて、農事組合法人なめざわのハウスでは“こごみ”が毎日収穫され、首都圏へ出荷されています。

稲作中心の10人の構成員は通年農業を目指し、無肥料・無農薬のほうれん草、レタス、わさび菜等を生食用で栽培しました。次は“行者にんにく”と続きます。冬のハウス利用は、後作のトルコキキョウ、沖田なすの連作障害防止にも役立っています。

冬から初春の朝日地域のハウスには、旬の恵みがギュッとつまっています。  
(佐藤みほ委員)



# 鶴岡市の農業を考える

## ～農業者等との意見交換会～



農業委員会では、農業の最前線で活躍されている方々の意見・要望等を集約し、国や県、市の農業施策に反映させることを目的に、意見交換会を実施しています。今年度は2月7日、グランドエル・サンを会場に開催され、市議会産業建設常任委員、両JA関係者、各農業団体等の代表者、農業委員、農地利用最適化推進委員、新規就農者など約50人が参加しました。

第1部では、鶴岡市農林水

産部長の高橋和博氏より、市の農業振興の取り組みについて情報提供があり、続いて、ヤマガタデザインアグリ株式会社代表取締役の山中大介氏より、「庄内からときめこう」と題してご講演をいただきました。



山中大介氏

第2部の意見交換で出た声を紹介いたします。

### テーマ① 農地集約の推進

▼地域の耕作者が減り、少人数でも集約を進めていけないかと、話し合いをした。  
▼1～2年のスパンで実験的に農地交換できる仕組みがあれば良い。  
▼基盤整備を進めることは、作業効率アップや若い人が参

入するうえで欠かせない。

▼中山間地域であるが、誰かが声をかけたら思いのほか話が進んだ。声をあげることが大事。

### テーマ② 担い手の育成・確保

新規就農者からは：

▼農業で自分の課題を解決し、自分の人生をデザインしたいが、思うように農地を借りられない現状がある。  
▼色々チャレンジしたが、なかなか結果が出ず、がむしゃらに頑張りたい。

これらの声を受けて：

▼人・農地プランの実質化がしっかり進めば、新規就農者の問題も解決に一步進むのではないかと。

▼新規就農者は地域の宝。若い農業者を応援していこうと思っている。

▼一緒に活動して信頼関係を作っておくことが、将来の集約につながると思う。

▼アンケートの実施も話し合いのきっかけになる。

▼オール鶴岡でやっていけたい。

▼スピード感を持ってやっていくことが大事ではないか。



▼自然農法に取り組んでいるが、地元で理解されないなど、厳しい現実がある。



鶴岡市立農業経営者育成学校SEADSの開校を目前に控え、有意義な意見交換ができたと考えます。同時に、農業委員会に対してはたくさんの課題をいただきました。今後の活動に大いに役立てていこうと思えます。

(重松美鈴委員)



# 食育・地産地消専門委員会



藤田牧場

12月3日から4日までの日程で、食育・地産地消専門委員会の委員14人が新潟市で視察研修を行いました。

新潟市西蒲区の「藤田牧場」では、有機栽培を中心とした米生産、自社の牛乳・肉牛を使用したジェラート店とレストランの営業など、グループ全体で取り組んでいる循環型農業について説明がありました。レストランは、新潟市が「国家戦略特区」になった規制緩和により、農業用施設として農用地区域に設置された全国初の例とのことでした。

新潟市中央区の「いくとびあ食花」は、食育・花育、動物ふれあい、子育て、直売・レストランなどが一体となった施設で、新潟市の大生産地でありながら大消費地でもある特長を生かした、食育の市民運動の推進、にいがた流食生活の提唱などの取り組みについて、勉強させていただきました。

今回の先進的・特徴的な農業経営や食育の取り組み等の視察を通し、今後の鶴岡での農業や食育活動にも生かしていきたいと思えます。

(荻原優太専門委員長)



いくとびあ食花

## 農業委員を募集します

鶴岡市農業委員会の次期改選（令和2年11月）に向け農業委員を募集します。

募集期間

令和2年6月1日（火）～令和2年6月30日（水）**必着**

任期

3年（令和2年11月26日～令和5年11月25日）

応募方法

「団体・農業者等からの推薦」と「自ら応募」の2種類の方法があります。

推薦、応募される方は、所定の様式に必要事項を記入の上、令和2年6月30日（水）まで、鶴岡市農業委員会事務局（藤島庁舎2階）又は各分室へ提出してください。推薦・応募の方法の詳細については、「募集要項」をご覧ください。

募集要項は、5月1日から、農業委員会事務局又は各分室で配布できます。また、市のホームページ（<http://www.city.tsuruoka.lg.jp/>）でもご覧いただけます。

### 募集内容

募集人数 20人

報酬 43,000円/月  
(役職委員は増額されます)

主な業務 会議に出席し、農地の貸借・売買、転用許可等の審議を行うほか、農地の調整、利用状況の調査等を行います。

要件 農業に関する識見を有し、業務を適切に行うことができる者



※推薦・応募の中間状況、最終結果については、市のホームページで公表します。推薦・応募のあった候補者の中から20人を選考します。選考結果については10月上旬に通知します。詳しい内容については鶴岡市農業委員会事務局へお気軽にお問い合わせください。

※農業委員会が委嘱する農地利用最適化推進委員は、10月頃の募集を予定しています。詳細は広報9月号でお知らせします。

広報編集  
委員が

〇〇に  
いってきました



おじゃまします!

今回の訪問は、櫛引地域で就農し、5年が経過しようとしている、自然栽培農家の齋藤かおりさんです。

地元の三千刈地区で、お父さんの慣行での水稻栽培を手伝う傍ら、自然農法で丹精込めて、米や大豆のほか十種類余りの野菜を栽培し販売しています。

小さい頃から自然環境や環境汚染に関心を持っていて齋藤さん。県内外で一人暮らしを経験し、体調を崩して外出もできずにいた中でたくさん本を読み、生活の基本である「衣食住」の「食」をまず見直そうとオーガニックにたどり着いたそうです。



齋藤かおりさん

「これしかない!と農業を始める決心をし、一年間、藤島地域で有機農業の研修

をしたのち、自宅の農地で一部のみ自然農法での栽培をスタートさせました。

本人曰く、自然栽培米の栽培面積は少ないけれど、苗づくりと夏場の除草作業が毎年の課題とのこと。技術面について、特に販路について不安を持ちながらも、就農当初から現在までとてもたくさんのお客様や先輩農家、仲間、家族に支えられて続けることができていると話していました。

畑や気候と相性の良い豆類



現在はオーガニック商品を求めている方々に、米や野菜を直接販売したり、産直やマルシェで販売しているほか、県内外の飲食店や食品店舗、個人のお客様への発送も行っています。また、収穫した大豆は味噌づくりをしている方に分けているそうですが、自ら味噌仕込みのワークショップなどを開催して参加者に喜ばれているそうです。



マルシェでの出店の様子。

齋藤さんに、有機農業をやっている楽しいことはと尋ねたところ、とにかく仕事が好き、作った野菜たちがかわいく、愛おしい、優しい気持ちにもなれるし、想像していた以上に楽しくて、あつという間に一日が

終わるとのことでした。さらに、庄内は山々に守られ、すばらしい気候風土に恵まれた美しい土地であると話してくれました。



タネ採り用に選抜した固定種人参

今後は栽培面積や生産量を徐々に増やし、加工もやりながら、消費者の方々に喜んでもらいたい、経営も軌道に乗せたいと思うと同時に、自然環境の改善や、子供たちへの食育にも関わりながら、少しずつ地元に戻していきたいとのことでした。



この4月に開校予定の鶴岡市立農業経営者育成成学校「SEADS」については、大いに期待しているし、良い関係でありたいと話していました。さらに、この地域には同業の女性で話せる人がなかなかいないので、同じ女性目線で仕事の話しができる仲間作りができたということでした。



地域の良さに感謝の気持ちを持ち、本当にやりたいと思う農の姿に正面から向き合って話をしてくれた齋藤かおりさん。とっても素敵な表情が印象的でした。

(石塚治)委員

# 農地中間管理事業で まずは、ご相談ください 担い手の農地集約を推進します

農地中間管理事業は、農地中間管理機構（やまがた農業支援センター）が農家から農地を借り受け、農業経営の規模拡大や効率化（農地集約）を図りたい担い手農家へ貸付ける制度です。

## 農地を貸したい方

- ・ 農業経営のリタイアを考えている
- ・ 農地の受け手を探している
- ・ 規模縮小を考えている

## 農地を借りたい方

- ・ まとまった農地で効率良い経営がしたい
- ・ 経営の規模拡大を目指す
- ・ 新規に農業参入を目指している



**出し手  
農家**

**お住まいの地域庁舎・  
農業委員会・JA**

**受け手  
農家**

農地中間管理事業を  
活用したい場合

※お申込み・ご相談  
はお住まいの地域  
庁舎・農業委員会・  
JA窓口へ

機構へ貸付

**連携 協力**  
農地の貸し借りの調整・マッチング

**農地中間管理機構**  
【やまがた農業支援センター】

機構から借入

農地中間管理事業を  
活用したい場合

機構は農地中間管理事業に係る借受希望者の募集をしておりますので、募集期間内に応募する必要があります。  
※借受希望申込書をお申込みください

## ！注意！

農地利用の効率化、高度化を図るため機構が借受希望者の中から適任者を決定し貸付けることとなりますので、受け手が決まっている場合でも受け手の調整を行うこととなります。

相対でお願い  
できねが？

いいよ～

出し手

受け手

出し手は、受け手の選考について農地中間管理機構に白紙委任することになります

# 鶴岡市農業者年金協会研修会

笑いで健康

2月17日、羽黒町「やまぶし温泉ゆぽか」を会場に鶴岡市農業者年金協会研修会が開催され、各地域から95名の会員が参加されました。

渡部会長の挨拶に始まり、「農業者年金〇×クイズ」や、山形落語愛好協会の笑風亭間助さん、錯乱坊双極さんによる落語、羽黒地域の特産が当たる抽選会が行われました。

会場からは絶えず笑い声が聞こえて、参加者全員のナチュラル細胞が活性化し、免疫力が高まった様子でした。

(金野匡良推進委員)



知らないとい  
損!

## 農業者年金の 税制優遇と保険料補助

ご存じですか?

保険料が  
全額社会  
保険料控除

経営や家計の状況  
により保険料の額を  
変更できます!

青色申告等の要件  
を満たせば  
月額で最大1万円  
(年12万)の保険料補  
助※があります!

### ※保険料補助を受けるには…

国民年金第1号被保険者などの農業者年金への加入要件に加え、

- **39歳までに加入** ● **農業所得が900万円以下**
- **下記の農業者の担い手要件** を満たせば受けられます。

- ① 認定農業者で青色申告をしている人
- ② 認定新規就農者で青色申告している人
- ③ 上記の要件を満たす経営主と家族経営協定を締結して経営に参画している配偶者、後継者 など

詳しくは  
農業委員会  
へ

## あ と が き

今シーズンの冬は、今までに経験したことのない気温の高さと降雪量の少なさで、これは暖冬レベルではなく、ひとつの災害と言われるほど異常な天候でありました。

春以降の水不足、病害虫の発生等も心配されます。農家だけに限ったことではなく、地球温暖化の問題は深刻で、自然災害も毎年のように発生し、常態化しています。世界の国々や団体等での話し合いはされていますが、個々で何ができるかを改めて考えるべき時が来たのではないのでしょうか？

(太田裕徳広報編集委員長)



・毎週金曜日発行

・月額700円(税込)

・申込みは農業委員会へ

経営と暮らしに役立つ農業総合専門紙です。



NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

### 鶴岡市農業委員会事務局

〒999-7696 山形県鶴岡市藤島字笹花25(鶴岡市藤島庁舎内) ☎64-5868・64-5860(直) FAX.64-5846

○鶴岡分室 25-2111(代) ○榊引分室 57-2114 ○羽黒分室 62-2111(代) ○朝日分室 53-2111(代) ○湯海分室 43-4616

<http://www.city.tsuruoka.lg.jp/sangyo/nougyouuinaki/index.html>